

令和3年度 むつみ家ももの木保育園 保育所自己評価

□評価日：令和4年1月31日

□対象者：常勤保育士4名

□評価項目：前年度の自己評価からの改善状況を把握するため、同一の評価内容にて実施。

□評価基準： A…確実にできている B…ほぼできている

C…あまりできていない D…ほとんどできていない

□方法：年度内半期ごとに保育士(常勤)が自己評価項目に基づいて各自自己評価を実施。その結果を踏まえて職員会議等で評価内容を検討、整理を行い課題を共有して以降の保育実践に活かす。下半期、保護者向けに「保育に関するアンケート(別紙)」を実施し、その評価及び下半期の自己評価を合わせて当該年度の保育所自己評価とする。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

【園の基本姿勢について】

	A	B	C	D
1. 園の保育理念、保育目標を理解している。		4		
	1	2	1	
2. 保育理念及び目標と保育所保育指針の関係を理解し、全体的な計画に基づいて指導計画を立てている。		2	2	
		3	1	
3. 子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行っている。	1	3		
	1	3		
4. 入所する子ども等の個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情などに対し、その解決を図るよう努めている。		4		
		4		

(評価)

園の基本姿勢については概ね理解されている。2について、幾分評価が上がった一方、1については評価にバラつきでた。今年度初めて18名の定員が埋まり、それぞれ異なる子どもたちの成長や家庭の状況に添って保育を実践していく中で、個々の保育士の中でもその理解や評価が別れた可能性がある。また、保護者アンケートより、当園の保育理念・方針を「知らない」と回答した保護者が一定数見られたため、職員自身がしっかりと理解・確認した上で、十分な説明ができるようにしたい。

【保育所保育指針】

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第1章 総則

	A	B	C	D
5. 一人一人の子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めるよう留意している。		4		
		4		
6. 子どもの生活のリズムを大切に、健康、安全で情緒の安定した生活ができるよう環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えている。	1	3		
	1	1	2	

7. 子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じ、子どもの個人差に十分配慮しながら保育をしている。		3	1	
		3	1	
8. 子どもが自発的・意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にし、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的な保育をしている。		1	3	
		1	3	
9.一人一人の保護者の状況やその意向を理解、受容し、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮しながら、様々な機会をとらえ、適切に援助を行っている。		3	1	
		3	1	
10.保育における養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、保育所における保育は、保育及び教育を一体的に行うことがその特性であることを知っている。	1	3		
	1	3		
11.子どもの主体的な活動を促すためには、保育士等が多様な関わりを持つことが重要であることを踏まえ、子どもの情緒の安定や発達に必要な豊かな体験が得られるよう援助している。		2	2	
		2	2	
12.保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		2	2	
		2	2	

(評 価)

小規模保育園としての強みを活かし、子どもたちの個々の成長、保護者に寄り添う保育を大切にしており、その点については保護者アンケートでも高く評価していただき、保育者として大変励みになるお言葉も多数いただいた。更なる保育の質の向上を目指す中で、問6,8,11,12の評価が低い傾向にあり、特に問8,11,12については前年度からの明確な改善が見られないことは今後の大きな課題となる。子どもたちへの「手厚い保育」という枠のみに留まらず、子どもたちの個々の能力や主体性を伸ばす保育実践を保育計画に基づいて行うことができるスキルを身に付ける必要がある。前年度に比べオンライン研修など外部研修会への参加機会は増えたが、そうした必要な情報収集を進めるとともに、内部研修会等を含めた職員間での情報共有と個々の保育事例の検討などを通し、職員のスキルアップと保育の質の向上に向けしくみを整えたい。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第2章 保育の内容

	A	B	C	D
13.基本的事項としての乳児期の発達について知っている。		4		
		4		
14.乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発育及び発達状況や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行っている。	1	3		
		4		
15.乳児保育では一人一人の子どもの成育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育士が応答的に関わるように努めている。	1	2	1	
		4		
16.基本的事項としての1歳以上3歳未満児の発達について知っている。		4		
		4		

17.1歳以上3歳未満児の保育では、探索活動が十分にできるように、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れている。	1	3	
	1	3	
18.1歳以上3歳未満児の保育では、自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気づくようになる重要な時期であることから、情緒の安定を図りながら、子どもの自発的な活動を尊重し、促している。	4		
	4		
19.子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助している。	4		
	3	1	
20.子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に援助している。	4		
	3	1	

(評 価)

問17について、評価の改善が見られない。前項目の評価とも通じるが子どもたちの個々の能力や主体性を伸ばしていくための保育実践の理解、具体的な方法について更に学ぶ必要がある。また、限られた空間の中で、いかに体を動かした活動を取り入れることができるかを模索したい。特に冬季は現状においては子どもたちの活動量が減っていることは否めず、新たな保育活動を取り入れていきたい。また、問19,20についても評価が幾分下がっている。保護者アンケートにおいても個別対応への保護者の受け止め方には幅が見られ、対応の難しさと更なるスキルアップの必要性を感じる。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第3章 健康及び安全

	A	B	C	D
21.子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態並びに発育及び発達状態について、定期的・継続的に、また、必要に応じて随時、把握している。	2	2		
		3	1	
22.保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向けその基礎を培うことを目標とし、子どもが生活と遊びの中で意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくことを期待するものであることを知っ	1	3		
		4		
23.子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員等の関わりや、調理室など食に関わる保育環境に配慮してい	2	2		
		4		
24.事故防止の取り組みを行う際には、特に、睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行うなど、必要な対策を講じている。	1	3		
	1	2	1	
25. 保育中の事故の発生に備え、施設内外の危険箇所の点検や訓練を実施するとともに、外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な対応を行っている。	2	1	1	
		3	1	

(評 価)

基本的な部分については概ねおさえられている。また、保護者アンケートでも同内容に準じた設問についての評価は安定していた。コロナ禍、園児の健康状態の把握とそれへの対応は大変難しく気を使うところではあるが、園内でのコロナ発生を防げたことは一定の成果であると思われる。また、食育活動では、感染防止対策をした上でおやつ作りなどを行い、限られた状況において可能な範囲で取り組むことができた。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第4章 子育て支援

	A	B	C	D
26. 保護者の状況に配慮した個別の支援がとられている。	1	3		
	1	3		
27. 不適切な養育等が疑われる家庭への支援が確立されている。		2	2	
		2	2	

(評 価)

保護者への個別対応に日々努めてきたため、問26ではそうした傾向が窺えるが、保護者アンケートの回答と必ずしも一致しない。アンケート中、保護者の価値観の受容については、保護者の受け止め方に幅が見られ、そこからも対応の難しさを感じる。保育者自身のスキルアップと共に職員間の情報共有に努め、一層の個別の支援に努めたい。また問27については、園単独での判断にならぬよう行政や関係機関等と相談したり、情報を共有するなどして慎重に対応するようにしたい。

※上段：上半期、下段：下半期(通年)

第5章 職員の資質向上

	A	B	C	D
28. 自己評価に基づく課題を把握し、保育所内外の研修等を通じて、自身の職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。		2	2	
		2	2	
29. 職員が日々の保育実践を通じて、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上を図るとともに、保育の課題等への共通理解や協調性を高め、保育所全体としての保育の質の向上を図っていくために、職場内での研修の充実が図られている。	1	1	2	
	1	2	1	
30. 必要に応じた外部研修への参加機会が確保され、参加している。		1	3	
	1	2	1	

(評 価)

問29,30については、幾分改善の傾向が見られる。今年度はオンライン研修を中心に外部研修の受講機会が正規職員で増えた。研修内容は園内で共有し、保育の質の向上のために活かしていくと共に、今後も積極的に外部研修に参加したい。問28では、自己評価で明確になった課題が、まだまだ解決できていない面が窺える。先述の保育実践の方法や個別対応へのスキルアップを中心に必要な知識や技術が習得できるよう努めたい。

